

国労東海

国鉄労働組合
東海エリア本部

東京都区新橋5-15-5
交通ビル7階

発行責任者 植田 誠
編集責任者 寺崎 浩

組織拡大・要求実現へ職場から奮闘しよう

東海本部が第38回定期大会を開く

東海本部は8月3日、東京大崎・南部労政会館で第38回定期大会を開催しました。

大会では、昨年度の運動に対する経過報告及び決算報告、2023年度の運動方針・予算案に対して、各代議員からの活発な議論が交わされ、「仕事・職場総点検運動」「職場三大要求運動」の取り組み強化、最重要課題である組織強化・拡大へ向けた取り組みの強化、24春闘勝利へ向けた職場からの闘いを進めることを意思統一しながら全体で確認しました。



第38回大会では、組織拡大、要求実現へ職場からの闘いを進めることを全体で確認した

大会冒頭、木村副委員長の司会あいさつを受けた後、議長に静岡地本の塩澤代議員を選出し大会議事を進めました。東海本部・植田委員長のあいさつを受けた後(2面に要旨を掲載)、来賓の国労本部木村副委員長があいさつを行ない、「平和憲法を守る取り組みの強化と地方交通線を守るために各自治体等と連携しながら闘いを進めると

もに、最重要課題である組織拡大を諦めたら終わりであるとの気持ち共有しながら、さらなる取り組みの強化を要請する」と述べられました。

協約・協定の締結、2022年度決算等の承認後に、高木業務部長が2022年度の経過報告及び2023年度運動方針等の提案を行いました。

昼食・休憩後、経過及び運動方針に対する討論では16人の代議員が発言。高木業務部長による答弁・集約を受けて経過・運動方針が全体の拍手で承認されました。2023年度予算等の承認、代議員投票によるスト権確立、役員選出・新旧役員あいさつ後に特別決議・大会宣言を採択し、植田委員長による「団結ガンバロー」で閉会しました。

2023年度東海本部執行体制

東海本部第38回大会で選出された執行部は以下のとおりです。

執行委員長	植田 誠 (再)
副執行委員長	木村 智之 (再)
書記長	渡邊 和久 (再)
執行委員	高木 亨 (再)
〃	寺崎 浩 (再)
〃	池田 卓司 (再)
〃	赤松 大 (再)
特別執行委員	宮坂 務 (新)
会計監査	大橋 弘一 (再)
〃	堀江 吉昭 (新)
退任役員	今大会で役員を退任した方々
山崎明彦特別執行委員	
坂下智康会計監査員	

代議員の発言から (要旨)

藤井 智 (新幹線地本)
(発言順・敬称略)

分会執行委員会は2カ月に1回、レクを年2回開催している。分会活性化を目標としているが組合員が減っている状況では組織拡大を含めて無理がある。組合員がゼロになる前に、具体的な取り組みを考えるべき。

尾崎 仁 (名古屋地本)

国労は、JR発足後の運動で本場に弱い人

たちを助けることをやっていたのか振り返る必要がある。国労・分会運動には積極的に取り組んできたし、交渉情報も見ているが、最近では会社に相手にされていないのではないかという思いがある。

早川 和幸 (新幹線地本)

月1回の執行委員会を開催し、各職場の問題を取り上げているが、組合員が1人となった職場は掲示板が撤去された。近くのツアーズ閉鎖により、退職時の旅行券利用に苦労している。分会の統合を進めているが、組織の在り方を検討する必要があるのではないかと。

柴田 研悦 (静岡地本)

地本を含め、機関役員を兼務している状態で執行委員会も開催できていない状態。平和問題も含め、地域から闘いを取り組んでいきたい。利用者アンケートにより、「トイレがない列車

があり不便だ」等があり、利用者の声を基に会社に対し改善を要求していきたい。

後潟 直也 (新幹線地本)

組織拡大を取り組んできたが、なかなか難しい。自動運転により車掌等が減らされるのではと不安な声がある。最近、育休を男性社員も取得し、女性社員は時短勤務を取得するなど子育て世代は良くなっているのでは。

柴田 智 (新幹線地本)

新生テクノスへ出向しているが下請業者の都合で仕事している状態で、夜勤中心となっている状態。離職率も高いように感じられる。夜勤時間を短くして、夜勤回数を増やそうとしている。

西田 浩義 (新幹線地本)

二年後には現職がいなくなるが、分会活動が成り立つのか不安である。第一運輸所の掲示板が7月末で撤去となった。現在、荷物置場付きの切符が発売されているが利用者の対応に不安が増大している。地方交通線の問題、平和問題に対し国労は悪いものは悪いとの対応をお願いしたい。

(2面に続く)

植田委員長のあいさつ

(要旨)

第38回東海本部定期大会に参集された構成員・傍聴者のみなさん、大変お疲れ様です。また、職場運動・地域運動に奮闘され、先頭に立ちがんばっておられる組合員のみなさんに敬意を表します。

まず、地方交通線問題ですが、国民が等しく移動する権利の確立の取り組み、地域利用者の視点に立ち地方ローカル線を守っていくことが重要になっています。各地方の運動に学び国労本部と連携して対応したいと考えています。

ロシアのウクライナへ軍事進攻は、どのような理由があろうとも「武力による侵略や国民への無差別殺戮」を認めることはできません。一刻も早く戦争を終わらせるために取り組みの強化と支援が求められています。

岸田政権は「安保3文書」で敵基地攻撃能力を打ち出すなど軍事大国化を進め、国の在り方や国民生活が大きく変わる悪法を強硬採決しており、岸田政権の暴走を阻止する取り組みが重要になっています。

国労の最重要課題の組織強化・拡大の取り組みです。組織拡大に特効薬はありませんが、前に出なければ進まないのも事実です。これまでの取り組みの、成果・反省を踏まえた上で、不退転の決意で、組織強化・拡大運動を全力で取り組むことを確認したいと思えます。

JRの安全・安定輸送の取り組みですが、名古屋地区を中心に「お客様サポートシステム」の導入が進み、実質無人駅が増えて駅員が減少し「利用者アンケート」の回答からも様々な不安の声が寄せられています。働く者の労働条件を含め、会社施策の検証と利用者目線の改善が重要だと考えています。

23春闘では、東海・貨物・バスとも有額回答がだされましたが、24春闘でも、大幅賃上げ獲得・労働条件改善に職場や地域での闘いを作ることが求められます。

国労運動を、継承・発展させていくためにも、職場・分会運動を強化し、組織拡大の取り組みに総力を集めることを訴えてあいさつとします。

(1面からの続き)

芹沢 郁弥 (静岡地本)

貨物では、ベア実施されたが生活改善できない金額で、夏季手当も1・62カ月との低額回答社員に、諦め感があり退職者もでており要員不足が目立ってきている。

山田 多佳男 (名古屋地本)

中央線・東海道線において、「お客様サポートサービス」導入が進んでいる。会社は、苦情・トラブルは想定内と言及しているが、国労として利用者の安全・利便性を主張し会社に要求し続ける。

西山 智司 (静岡地本)

広大な構内のポイント注油を、

最低7人の社員で実施している。要員確保のために、夜勤明けの社員も含めて作業するが、熱中症のリスクが緩和される要員増や装備にたいする対策を要求したい。他労組を含めてレクを開催しているが、組織拡大に結びつけない。

永田 晴茂 (新幹線地本)

電力と通信が一緒となり電気技術センターとなった。日曜日に休みたくて、年休申込簿に記入すると公休とせずに、年休となる勤務作成が若い人中心にやられている。年休申込簿なので年休になるのは理解するが、公休が入るのに年休とすることは納得できない。

鈴木 浩昭 (名古屋地本)

出向で、社員管理の仕事を任せられ苦労した。パートの人たちは時給1500円程度で働いており、年収200万円行かどうかの状態で1500円以上は絶対必要。組織されていない人たちが、問題あれば声を出していこうと声掛けしている。

篠沢 宏一 (新幹線地本)

遺失物の取り扱いが変更となったが、旅客に不便をかける状態で苦情の原因となっている。暑さで、体感温度は40度くらいの状態に働いている。旅客のことも含めた、ミストシャワー設置を考慮すべき。暑さで手当てがつくわけでもないので会社として対策するべきだ。

土田 健一 (新幹線地本)

分会執行委員会は月1回開催している。職場三天要求は、二項目を分会共通要求とし残りの一項目を各職場の独自要求として集約している。今後、役員をどの様に引き継いでいくのか苦慮している状態だ。

表 昌司 (名古屋地本)

ずっと駅員をやっており、10数年主任試験を受け続けたが不合格となっている。周りも国労だからとの雰囲気があるが、国労だからとの所属組合によって合格・不合格を是認するような状態を改善すべき。

各代議員の苦しい発言は、方針とのギャップがあるので

は。分会が苦しいのに分会強化・活性化は無理で、矛盾している。職場総点検で職場の中心に立とうと取り組んできたが、難しくなってきた。職場で出来ることは、取り組んでいく。

がん保険にできることを、もっと。

NEW 「生きる」を助るがん保険 WINGS

No.1 アフラックがん保険 標準保険料 毎月約1万円 がん診断金 100万円

1 幅広い保障で 経済的負担をサポート

治療前の検査から治療後の外傷ケアまで 幅広い保障でしっかり補えることができます。

2 アフラックのよりそがん相談サポート

「がんかもしれない」と思ったときから 専門知識を持つ相談員がお応えします。

(※1) アフラックのよりそがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保険内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ(https://www.afiac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html)をご確認ください。

（募集代理店）（アフラックは代理店制度を採用しています）

アベニール株式会社

〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3階 TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

（信託保険会社）

Affac

「生きる」を助る。 アフラック 東京第一法人営業部 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19階 TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

AFツール2022-0277-22/0030 7月13日